

## 被災地における木造仮設住宅の転用に関する研究： 平成28年熊本地震を事例として

漕上, 貴代

<https://hdl.handle.net/2324/4474921>

---

出版情報：九州大学, 2020, 博士（人間環境学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：

氏名	湧上貴代
論文名	被災地における木造仮設住宅の転用に関する研究 -平成28年熊本地震を事例として-
論文調査委員	主査 九州大学大学院人間環境学研究院 准教授 末廣香織 副査 九州大学大学院人間環境学研究院 准教授 志賀勉 副査 九州大学大学院人間環境学研究院 准教授 黒瀬武史 副査 九州大学大学院芸術工学研究院 教授 田上健一

## 論文審査の結果の要旨

平成28年の熊本地震では、683戸の応急仮設住宅を恒久住宅への転用が容易な木造で建設し、最終的にその過半が公営住宅等として利活用されることとなった。本研究は、熊本地震における仮設住宅を対象として、初期の計画段階から、その後に恒久住宅へと転用されるまでの経緯を調査・分析することで、今後大規模な災害が起きた時に、どのような条件下であれば木造仮設住宅を選択できるのか、また、その後どのような活用可能性があるのかについて整理し、そのまとめとして、今後災害が起きた場合に自治体が木造仮設住宅を建設し転用するまでのロードマップを提示している。木造仮設住宅の利活用が効果的に行えれば、資源の浪費が避けられるだけでなく、転居による居住者のストレスを減じ、コミュニティの維持にも貢献する可能性がある。本研究は、財政やコミュニティという被災自治体が抱える課題に対する一つの方向性を提示しており、本論文は博士(人間環境学)の学位に値するものと認める。